

[I]

直線 l は、負の数 a と、2 より大きい数 b を用いて

$$y = ax + b$$

とおける。このとき、 x 軸、 y 軸との交点は順に

$$A\left(-\frac{b}{a}, 0\right), \quad B(0, b) \quad \dots \textcircled{1}$$

となる。三角形 OAB の面積 $\triangle OAB$ は $S + T$ に半径 1 の半円の面積 $\pi \cdot 1^2 \cdot \frac{1}{2} = \frac{\pi}{2}$ を足したものであるため、 $\triangle OAB$ がいつ最小になるかを調べればよい。

l と $(0, 1)$ との距離が 1 より、点と直線の距離の公式から、

$$\begin{aligned} \frac{|a \cdot 0 - 1 + b|}{\sqrt{a^2 + 1}} &= 1, \\ |b - 1| &= \sqrt{a^2 + 1}, \\ b^2 - 2b &= a^2. \end{aligned}$$

$a < 0$ より、

$$a = -\sqrt{b^2 - 2b}. \quad \dots \textcircled{2}$$

よって、

$$\triangle OAB = \frac{1}{2} \left(-\frac{b}{a}\right) b = \frac{b^2}{2\sqrt{b^2 - 2b}} = \frac{1}{2} \sqrt{\frac{b^3}{b - 2}}.$$

$f(b) = \frac{b^3}{b - 2}$ とおくと、商の微分の公式より

$$f'(b) = \frac{3b^2(b - 2) - b^3}{(b - 2)^2} = \frac{2b^3 - 6b^2}{(b - 2)^2} = \frac{2b^2(b - 3)}{(b - 2)^2}.$$

よって、増減表は右のようになる。

b	2	...	3	...
$f'(b)$		-	0	+
$f(b)$		↘	27	↗

$b = 3$ のとき、 $f(b)$ が最小であるから $\triangle OAB$ も最小である。このとき、 $\textcircled{1}$ 、 $\textcircled{2}$ より

$$a = -\sqrt{3}, \quad A(\sqrt{3}, 0), \quad B(0, 3)$$

となる。よって、右図の三角形 OAB において $\angle OAB = 60^\circ$ 、

$\angle ABO = 30^\circ$ となり、 T 、 S_1 、 S_2 の部分は合同であるから、

$$S - T = (S_1 + S_2) - T = S_2 = \frac{\sqrt{3}}{2} - \frac{\pi}{6}. \quad \dots \text{(答)}$$

【補足】 T 、 S_1 、 S_2 の部分が合同であることに気付かなくても、

$$S + T + \frac{\pi}{2} = \triangle OAB = \frac{1}{2} \sqrt{3} \cdot 3$$

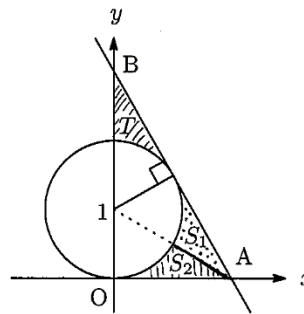
より

$$S + T = \frac{3\sqrt{3}}{2} - \frac{\pi}{2}$$

であることと、

$$S = \frac{1}{2} \sqrt{3} \cdot 1 \times 2 - \pi \cdot 1^2 \cdot \frac{1}{3} = \sqrt{3} - \frac{\pi}{3}$$

を用いれば $S - T$ が出る。



[I] (つづき)

【別解】

図のように各点 A, P, Q, R を定め、直線 AP と x 軸の

なす角を θ ($0 < \theta < \frac{\pi}{2}$) とおくと、

$$P(\cos\theta, \sin\theta + 1)$$

よって、直線 l の方程式は、

$$\cos\theta \cdot x + \sin\theta (y - 1) = 1$$

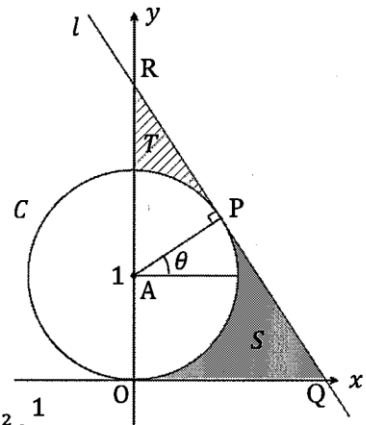
$$x\cos\theta + y\sin\theta = 1 + \sin\theta$$

$y = 0, x = 0$ とすると、

$$Q\left(\frac{1 + \sin\theta}{\cos\theta}, 0\right), R\left(0, \frac{1 + \sin\theta}{\sin\theta}\right)$$

したがって、

$$\begin{aligned} S + T &= \frac{1}{2} \cdot \frac{1 + \sin\theta}{\cos\theta} \cdot \frac{1 + \sin\theta}{\sin\theta} - \pi \cdot 1^2 \cdot \frac{1}{2} \\ &= \frac{(1 + \sin\theta)^2}{\sin 2\theta} - \frac{\pi}{2} \end{aligned}$$



ここで、 $f(\theta) = \frac{(1 + \sin\theta)^2}{\sin 2\theta}$ とおくと、

$$\begin{aligned} f'(\theta) &= \frac{2(1 + \sin\theta)\cos\theta\sin 2\theta - (1 + \sin\theta)^2 \cdot 2\cos 2\theta}{\sin^2 2\theta} \\ &= \frac{2(1 + \sin\theta)}{\sin^2 2\theta} \{2\sin\theta(1 - \sin^2\theta) - (1 + \sin\theta)(1 - 2\sin^2\theta)\} \\ &= \frac{2(1 + \sin\theta)^2}{\sin^2 2\theta} (2\sin\theta - 1) \end{aligned}$$

よって、 $f(\theta)$ の増減表は以下ようになる。

θ	0	...	$\frac{\pi}{6}$...	$\frac{\pi}{2}$
$f'(\theta)$		-	0	+	
$f(\theta)$		↘		↗	

$f(\theta)$ が最小のとき、 $S + T$ も最小となることから、 $S + T$ が最小となるのは $\theta = \frac{\pi}{6}$ のときで、このとき、

$$P\left(\frac{\sqrt{3}}{2}, \frac{3}{2}\right), Q(\sqrt{3}, 0), R(0, 3)$$

であり、

$$S = 2 \cdot \frac{1}{2} \cdot \sqrt{3} \cdot 1 - \frac{1}{2} \cdot 1^2 \cdot \frac{2}{3}\pi = \sqrt{3} - \frac{\pi}{3}$$

$$T = \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \sqrt{3} - \frac{1}{2} \cdot 1^2 \cdot \frac{\pi}{3} = \frac{\sqrt{3}}{2} - \frac{\pi}{6}$$

より、

$$S - T = \frac{\sqrt{3}}{2} - \frac{\pi}{6}$$

... (答)

[II]

「自然数 N を 3 で割ったときの余り」は
 「 N の各位の数の和を 3 で割ったときの余り」と等しい。

(1) 数 1, 2, 4 を重複を許して $n+1$ 個並べてできる $n+1$ 桁の自然数のうち、3 の倍数となるものは

- ・一の位が 1 のものは、残りの位の数の和を 3 で割ったときの余りが 2 の C_n 個
- ・一の位が 4 のものは、残りの位の数の和を 3 で割ったときの余りが 2 の C_n 個
- ・一の位が 2 のものは、残りの位の数の和を 3 で割ったときの余りが 1 の l_n 個

あるよって

$$A_{n+1} = l_n + 2C_n \quad \dots \textcircled{1} \quad \dots \text{(答)}$$

同様に

$$l_{n+1} = C_n + 2A_n \quad \dots \textcircled{2} \quad \dots \text{(答)}$$

$$C_{n+1} = A_n + 2l_n \quad \dots \textcircled{3} \quad \dots \text{(答)}$$

$$\begin{aligned} (2) \quad A_{n+2} &= l_{n+1} + 2C_{n+1} && \text{(①より)} \\ &= (C_n + 2A_n) + 2(A_n + 2l_n) && \text{(②, ③より)} \\ &= 4(A_n + l_n + C_n) - 3C_n \end{aligned}$$

ここで、 $A_n + l_n + C_n$ は

数 1, 2, 4 を重複を許して n 個並べてできる n 桁の自然数の個数であるから、 $A_n + l_n + C_n = 3^n$ であるよって

$$A_{n+2} = 4 \cdot 3^n - 3C_n \quad \dots \textcircled{4} \quad \dots \text{(答)}$$

(3) ④と同様に

$$l_{n+2} = 4 \cdot 3^n - 3A_n \quad \dots \textcircled{5}$$

$$C_{n+2} = 4 \cdot 3^n - 3l_n \quad \dots \textcircled{6}$$

[Ⅱ] (77) ≠ 1)

$$a_{n+6} = a_{(n+4)+2} = 4 \cdot 3^{n+4} - 3C_{n+4} \quad (\text{④より})$$

$$= 4 \cdot 3^{n+4} - 3(4 \cdot 3^{n+2} - 3a_{n+2}) \quad (\text{⑥より})$$

$$= 4 \cdot 3^{n+4} - 4 \cdot 3^{n+3} + 9(4 \cdot 3^n - 3a_n) \quad (\text{⑤より})$$

$$= 4 \cdot 3^2 \cdot 3^{n+2} - 4 \cdot 3 \cdot 3^{n+2} + 4 \cdot 3^{n+2} - 27a_n$$

$$= 28 \cdot 3^{n+2} - 27a_n \quad \dots \text{⑦} \quad \dots (\text{答})$$

(4) $a_{6m+1} = d_m$ とおく ($m=0, 1, 2, \dots$)

$d_0 = a_1 = (1, 2, 4 \text{のうち, } 3 \text{の倍数と異なるものの個数}) = 0.$

⑦に $n=6m+1$ を代入すると

$$a_{(6m+1)+1} = 28 \cdot 3^{6m+3} - 27a_{6m+1}$$

$$d_{m+1} = -27d_m + 28 \cdot 3^3 \cdot (3^6)^m \quad \dots \text{⑧}$$

$$d_{m+1} - (3^6)^{m+1} = -27 \{ d_m - (3^6)^m \}$$

$$d_m - (3^6)^m = \{ d_0 - (3^6)^0 \} \cdot (-27)^m$$

$$d_m = (3^6)^m + (-27)^m = 3^{6m} - (-3)^{3m}$$

$$a_{6m+1} = 3^{6m} - (-3)^{3m} \quad \dots (\text{答})$$

[II] (つぎ2)

(注) ⑧以降は次のように変形してもよい。

⑧の両辺を $(3^6)^{m+1}$ で割る

$$\frac{d_{m+1}}{(3^6)^{m+1}} = -\frac{1}{27} \cdot \frac{d_m}{(3^6)^m} + \frac{28}{27}$$

$$\frac{d_{m+1}}{(3^6)^{m+1}} - 1 = -\frac{1}{27} \left\{ \frac{d_m}{(3^6)^m} - 1 \right\}$$

$$\frac{d_m}{(3^6)^m} - 1 = \left\{ \frac{d_0}{(3^6)^0} - 1 \right\} \times \left(-\frac{1}{27} \right)^m$$

$$\frac{d_0}{(3^6)^0} - 1 = \frac{a_1}{1} - 1 = 0 - 1 = -1 \text{ (よ)}'$$

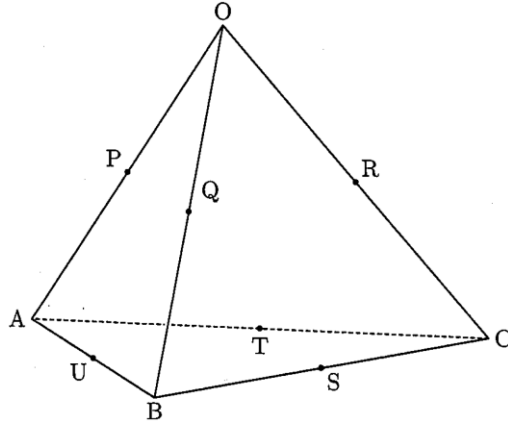
$$\frac{d_m}{3^{6m}} = 1 - \left(-\frac{1}{27} \right)^m$$

$$d_m = 3^{6m} - \left(\frac{3^6}{-27} \right)^m = 3^{6m} - (-3)^{3m}$$

$$a_{6m+1} = 3^{6m} - (-3)^{3m}$$

[Ⅲ]

(1)



$\vec{a} = \vec{OA}$, $\vec{b} = \vec{OB}$, $\vec{c} = \vec{OC}$ とおくと,

$$\frac{1}{2}(\vec{OP} + \vec{OS}) = \frac{1}{2}\left(\frac{1}{2}\vec{a} + \frac{\vec{b} + \vec{c}}{2}\right) = \frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{4},$$

$$\frac{1}{2}(\vec{OQ} + \vec{OT}) = \frac{1}{2}\left(\frac{1}{2}\vec{b} + \frac{\vec{c} + \vec{a}}{2}\right) = \frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{4},$$

$$\frac{1}{2}(\vec{OR} + \vec{OU}) = \frac{1}{2}\left(\frac{1}{2}\vec{c} + \frac{\vec{a} + \vec{b}}{2}\right) = \frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{4}$$

であるから、辺 PS の中点、辺 QT の中点、辺 RU の中点はいずれも一致する (以下、この点を K とする)。さらに、辺 PS、辺 QT、辺 RU のなかに一致するものはないから、辺 PS、QT、RU は 1 点 K のみで交わる。

(証明終り)

(2) 以下、 $\ell = |\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2$ とする。

$$OA^2 + BC^2 = |\vec{a}|^2 + |\vec{c} - \vec{b}|^2 = \ell - 2\vec{b} \cdot \vec{c},$$

$$OB^2 + CA^2 = |\vec{b}|^2 + |\vec{a} - \vec{c}|^2 = \ell - 2\vec{c} \cdot \vec{a},$$

$$OC^2 + AB^2 = |\vec{c}|^2 + |\vec{b} - \vec{a}|^2 = \ell - 2\vec{a} \cdot \vec{b}$$

であり、このことと $OA^2 + BC^2 = OB^2 + CA^2 = OC^2 + AB^2$ より、

$$\ell - 2\vec{b} \cdot \vec{c} = \ell - 2\vec{c} \cdot \vec{a} = \ell - 2\vec{a} \cdot \vec{b}.$$

[III] (つづき1)

これより,

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{c} \cdot \vec{a}$$

が成り立つ.

以下, $m = \vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{c} \cdot \vec{a}$ とする.

$$|\vec{PS}|^2 = \left| \frac{\vec{b} + \vec{c}}{2} - \frac{\vec{a}}{2} \right|^2 = \frac{l - 2m}{4},$$

$$|\vec{QT}|^2 = \left| \frac{\vec{c} + \vec{a}}{2} - \frac{\vec{b}}{2} \right|^2 = \frac{l - 2m}{4},$$

$$|\vec{RU}|^2 = \left| \frac{\vec{a} + \vec{b}}{2} - \frac{\vec{c}}{2} \right|^2 = \frac{l - 2m}{4}$$

であるから,

$$PS = QT = RU$$

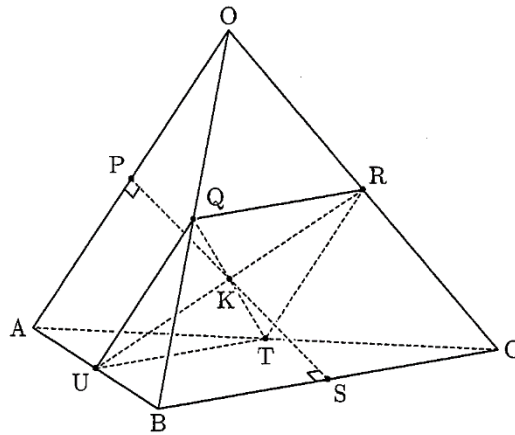
が成り立つ.

このことと(1)より, 点P, Q, R, S, T, Uはいずれも点Kから等距離にある.

したがって, 点P, Q, R, S, T, Uは同一球面上にある.

(証明終り)

(3)



中点連結定理により, $OA \parallel RT$, $BC \parallel QR$ である.

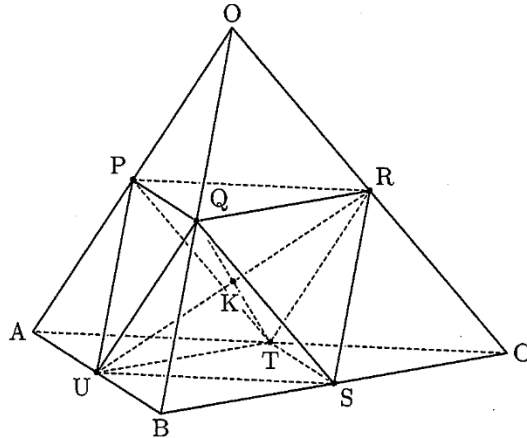
このことと辺PSが辺OA, BCと直交することから, $PS \perp RT$, $PS \perp QR$ である.

したがって, 四角形QRTUを含む平面と直線PSは垂直であり, このことと $PS = 2PK$ より, V は四角錐P-QRTUの体積の2倍である.

[Ⅲ] (つづき2)

よって、四角形 QRTU の面積を S とすると、

$$V = \left(\frac{1}{3}S \cdot PK\right) \cdot 2. \quad \dots \textcircled{1}$$



ここで、(1) より、線分 QT と線分 RU は点 K のみを共有し、(2) より、 $QT = RU$ である。したがって、四角形 QRTU は長方形である。

さらに、中点連結定理により、 $RT = \frac{a}{2}$ 、 $QR = \frac{k}{2}$ であるから、

$$S = \frac{a}{2} \cdot \frac{k}{2} = \frac{ak}{4}. \quad \dots \textcircled{2}$$

また、(2) より、 $PK = QK$ であり、直角三角形 QRT において、

$$QK = \frac{1}{2}QT = \frac{1}{2}\sqrt{\left(\frac{a}{2}\right)^2 + \left(\frac{k}{2}\right)^2} = \frac{\sqrt{a^2 + k^2}}{4}$$

であるから、

$$PK = \frac{\sqrt{a^2 + k^2}}{4}. \quad \dots \textcircled{3}$$

②、③ を ① に代入すると、

$$V = \frac{ak\sqrt{a^2 + k^2}}{24}. \quad \dots \text{(答)}$$

[III] (つづき3)

(4) $k = 1$ のとき, 次の (i)~(iv) をすべて満たすように 4 点 O, A, B, C をとることにより, どのような正の数 a に対しても (3) の八面体を作ることができる.

- (i) 直線 OA と直線 BC は同一平面上にない.
- (ii) 直線 OA と直線 BC は垂直である.
- (iii) 直線 PS は直線 OA と直線 BC のどちらにも垂直である.

(iv) $PS = \frac{\sqrt{a^2 + 1}}{2}$.

したがって, a はすべての正の値をとり得る.

また, (3) の結果より, $k = 1$ のとき, $V = \frac{a\sqrt{a^2 + 1}}{24}$ であるから, $\lim_{a \rightarrow \infty} V = \infty$.

以上より,

V の最大値は存在しない. ... (答)

[IV]

- (1) 3 回試合を行い W が連敗しないのは、勝つチームが、
WWW, WWK, WKW, KWW, KWK
となる 5 つの場合なので、

$$p_3 = 5 \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^3 = \frac{5}{8}. \quad \dots \text{(答)}$$

- (2) $n + 2$ 回試合を行い W が連敗しないのは、次の 2 つに分けられる。

- ・ 1 試合目に W が勝ち、それ以降の $n + 1$ 回は W は連敗しない、
 - ・ 1 試合目に W が負け、2 試合目に W が勝ち、それ以降の n 回は W は連敗しない。
- よって、

$$p_{n+2} = \frac{1}{2}p_{n+1} + \frac{1}{4}p_n. \quad \dots \text{(答)}$$

- (3) $p_{n+2} - \beta p_{n+1} = \alpha(p_{n+1} - \beta p_n)$ と $p_{n+2} - \alpha p_{n+1} = \beta(p_{n+1} - \alpha p_n)$ を変形すると、どちらも、

$$p_{n+2} = (\alpha + \beta)p_{n+1} - \alpha\beta p_n$$

となるので、(2) の結果から、

$$\alpha + \beta = \frac{1}{2}, \quad \alpha\beta = -\frac{1}{4}$$

を満たせばよい。つまり、 α と β は、

$$x^2 - \frac{1}{2}x - \frac{1}{4} = 0$$

の 2 解であるから、

$$\alpha = \frac{1 - \sqrt{5}}{4}, \quad \beta = \frac{1 + \sqrt{5}}{4}. \quad \dots \text{(答)}$$

- (4) (3) の問題文より、 $\{ p_{n+1} - \beta p_n \}$ は公比 α の等比数列になるので、

$$p_{n+1} - \beta p_n = (p_3 - \beta p_2)\alpha^{n-2}.$$

同様に、 $\{ p_{n+1} - \alpha p_n \}$ は公比 β の等比数列になるので、

$$p_{n+1} - \alpha p_n = (p_3 - \alpha p_2)\beta^{n-2}.$$

辺々引いて、

$$(\beta - \alpha)p_n = (p_3 - \alpha p_2)\beta^{n-2} - (p_3 - \beta p_2)\alpha^{n-2}.$$

$$p_2 = 3 \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^2 = \frac{3}{4} \quad (\text{WW, WK, KW となる場合}) \text{ なので、}$$

$$p_n = \frac{1}{\sqrt{5}} \left\{ \frac{7 + 3\sqrt{5}}{8} \left(\frac{1 + \sqrt{5}}{4}\right)^{n-2} - \frac{7 - 3\sqrt{5}}{8} \left(\frac{1 - \sqrt{5}}{4}\right)^{n-2} \right\}. \quad \dots \text{(答)}$$

[IV] (つづき)

注記

* (4) で, $p_1 = 1$ とみなして, $n = 1$ から漸化式を用いて解いて,

$$(\beta - \alpha)p_n = (p_2 - \alpha p_1)\beta^{n-1} - (p_2 - \beta p_1)\alpha^{n-1},$$

$$p_n = \frac{1}{\sqrt{5}} \left\{ \frac{2 + \sqrt{5}}{2} \left(\frac{1 + \sqrt{5}}{4} \right)^{n-1} - \frac{2 - \sqrt{5}}{2} \left(\frac{1 - \sqrt{5}}{4} \right)^{n-1} \right\}$$

と求めることもできる.

さらに, $p_0 = p_1 = 1$ とみなして, $n = 0$ から漸化式を用いて解いて,

$$(\beta - \alpha)p_n = (p_1 - \alpha p_0)\beta^n - (p_1 - \beta p_0)\alpha^n,$$

$$p_n = \frac{1}{\sqrt{5}} \left\{ \frac{3 + \sqrt{5}}{2} \left(\frac{1 + \sqrt{5}}{4} \right)^n - \frac{3 - \sqrt{5}}{2} \left(\frac{1 - \sqrt{5}}{4} \right)^n \right\}$$

ともできる.

いずれも, 見かけは異なるが, 同じ式である.

* (3) の問題文には「以下の2式を満たす α, β を求めよ」と書かれているので, 字義的に解釈すると, このようなすべての α と β を求めることになるが, この解答を読むと, そのような α と β のうち1つを求めただけのように読めるかもしれない. だが, α と β は一意的に決定するので, 問題はない.

実際, $p_2 = \frac{3}{4}, p_3 = \frac{5}{8}$ であり,

$$p_{n+2} = \frac{1}{2}p_{n+1} + \frac{1}{4}p_n \quad \text{と} \quad p_{n+2} = (\alpha + \beta)p_{n+1} - \alpha\beta p_n$$

が, すべての $n (\geq 2)$ で成り立つので, α と β は一意的に決定する.

[V]

$$(1) \quad y = -\cos t - \frac{1}{2} \cos 2t - \frac{1}{2} = -\cos t - \frac{1}{2}(2\cos^2 t - 1) - \frac{1}{2} = -\left(\cos t + \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{1}{4}$$

である.

また, $0 \leq t \leq \pi$ より, $\cos t$ のとり得る値の範囲は $-1 \leq \cos t \leq 1$ である.

したがって, y の

$$\text{最大値は } \frac{1}{4}, \text{ 最小値は } -2. \quad \dots(\text{答})$$

$$(2) \quad \frac{dy}{dt} = \sin t + \sin 2t = \sin t + 2\sin t \cos t = \sin t(2\cos t + 1)$$

であるから, $\frac{dy}{dt} < 0$ となる t の範囲は,

$$\frac{2}{3}\pi < t < \pi. \quad \dots(\text{答})$$

また, $x = \sin t + \frac{1}{2} \sin 2t$ より,

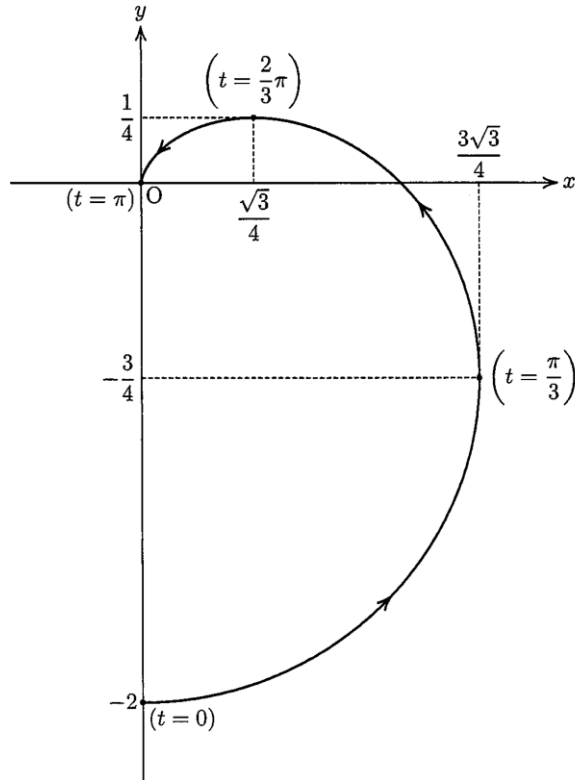
$$\frac{dx}{dt} = \cos t + \cos 2t = \cos t + (2\cos^2 t - 1) = (\cos t + 1)(2\cos t - 1).$$

よって, t の値の変化に応じて, C 上の点 (x, y) の位置は次の表のように変化する.

t	0	...	$\frac{\pi}{3}$...	$\frac{2}{3}\pi$...	π
$\frac{dx}{dt}$		+	0	-	-	-	
$\frac{dy}{dt}$		+	+	+	0	-	
(x, y)	$(0, -2)$	↗	$\left(\frac{3\sqrt{3}}{4}, -\frac{3}{4}\right)$	↖	$\left(\frac{\sqrt{3}}{4}, \frac{1}{4}\right)$	↙	$(0, 0)$

[V] (つづき 1)

したがって、 C の概形は次の図のようになる。



...(答)

[V] (つづき 2)

(3) C の $0 \leq t \leq \frac{2}{3}\pi$ の部分の点の x 座標を x_1 , C の $\frac{2}{3}\pi \leq t \leq \pi$ の部分の点の x 座標を x_2 と表すと,

$$\begin{aligned}
 V &= \int_{-2}^{\frac{1}{4}} \pi x_1^2 dy - \int_0^{\frac{1}{4}} \pi x_2^2 dy \\
 &= \int_0^{\frac{2}{3}\pi} \pi x_1^2 \cdot \frac{dy}{dt} dt - \int_{\pi}^{\frac{2}{3}\pi} \pi x_2^2 \cdot \frac{dy}{dt} dt \\
 &= \int_0^{\frac{2}{3}\pi} \pi \left(\sin t + \frac{1}{2} \sin 2t \right)^2 \sin t (2 \cos t + 1) dt - \int_{\pi}^{\frac{2}{3}\pi} \pi \left(\sin t + \frac{1}{2} \sin 2t \right)^2 \sin t (2 \cos t + 1) dt \\
 &= \int_0^{\frac{2}{3}\pi} \pi \left(\sin t + \frac{1}{2} \sin 2t \right)^2 \sin t (2 \cos t + 1) dt + \int_{\frac{2}{3}\pi}^{\pi} \pi \left(\sin t + \frac{1}{2} \sin 2t \right)^2 \sin t (2 \cos t + 1) dt \\
 &= \int_0^{\pi} \pi \left(\sin t + \frac{1}{2} \sin 2t \right)^2 \sin t (2 \cos t + 1) dt \\
 &= \int_0^{\pi} \pi \left(\sin t + \frac{1}{2} \cdot 2 \sin t \cos t \right)^2 \sin t (2 \cos t + 1) dt \\
 &= \int_0^{\pi} \pi \sin^2 t (1 + \cos t)^2 \sin t (2 \cos t + 1) dt \\
 &= \int_0^{\pi} \pi (1 - \cos^2 t) (1 + \cos t)^2 (1 + 2 \cos t) \sin t dt \\
 &= \int_1^{-1} \pi (1 - u^2) (1 + u)^2 (1 + 2u) \cdot (-1) du \quad (u = \cos t \text{ とおいた}) \\
 &= \int_{-1}^1 \pi (1 - u^2) (1 + u)^2 (1 + 2u) du \\
 &= \int_{-1}^1 \pi (-2u^5 - 5u^4 - 2u^3 + 4u^2 + 4u + 1) du \\
 &= 2 \int_0^1 \pi (-5u^4 + 4u^2 + 1) du \\
 &= 2 \left[\pi \left(-u^5 + \frac{4}{3}u^3 + u \right) \right]_0^1 \\
 &= \frac{8}{3}\pi.
 \end{aligned}$$

…(答)

【参考】 本問で登場した曲線 C はカージオイドと呼ばれる曲線である。